学　年	教科等	題材名	日　時
第６学年	音楽科	ずらしてずらして（ずってずって）から生まれた音楽	令和４年 10 月 25 日（火）５校時

研究内容１の手立て

本題材では、仲間の表現や考えを生かしながら音楽をつくることができるよう、以下の手立てをとる。

○　グループ活動では、必ず一人一人の役割を明確にさせる。その役割については、ふりかえりの際に、「自分がどのような役割だったのか」ということと「今日は何をしたのか」を記録させる。さらに、題材の終末では、毎時間のふりかえりから、「あってよかった役割」と「あるとよかった役割」について考えさせる。そうすることで、それぞれのできることがグループのなかでどのように生かされたのかを実感し、よりよい協働的な学習へと高めていくことができると考える。

○　本題材では、グループで活動をさせながら個人でお気に入りのずれの音楽を探し、本時は、一緒に活動した仲間との「（お気に入りの音楽について）語ろう会」を行うという活動の流れを仕組む。基本的な旋律が分かっている仲間同士で音楽を聴きながら話をさせることで、旋律が重なって生まれるリズムのずれや音の響きなどのおもしろさや、拍のずれによる表現の違い等を共感しやすい。相手に分かってもらいやすく、相手の意図を受け止めて聞きやすい状況が、ずれの音楽のおもしろさの理解へとつながるはずである。

○　子どもの姿からの報告

前時までにつくった「ずれの音楽」から、お気に入りのずれを探す。

１拍ずれは、ずっと休みがない感じだな。
あれ、３拍ずれは、きれいに重なってきこえるぞ。

【お気に入りのずれのメモ】

１拍ズレ　※グループ全員同じ（１番嫌いなズレも同じ）

音が階段のようになり、いつまでも聞いてられるような音楽になるから。

音と音の間に空白がないから。

研究：一緒に音楽づくりをしてきた仲間と「語ろう会」をする。

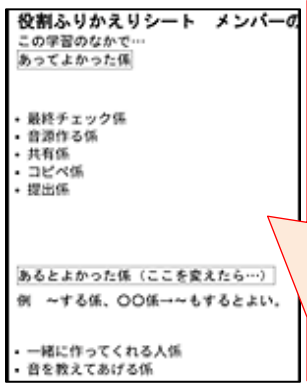
この１拍ずれのここの音の重なりが、きれいなんだ。ちょっと聴いてみて。

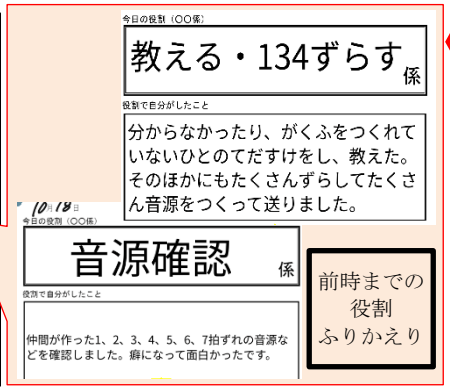
確かにそうだね。３拍ずれも、同じようにきれいに重なっているところがあるよね。

ぐちゃってするのは、どういうのこと？聴いてみたいな。

それもいいけど、私は、音の重なりが、ぐちゃってなるのもおもしろいって思ったよ。

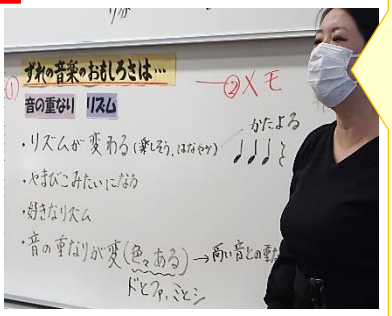
研究：題材全体での協働的な活動についてふりかえる。





今回は、音楽をつくっていく人はもちろん必要だったな。でも、１人だと不安もあるから、グループ内で教えてくれる係がいるといいね。そうすると、もっと安心して活動できそうだな。

「ずれの音楽のおもしろさは…」についてまとめる。



みんなの意見を見ると、
・「リズムが変わる」
・「きれいな音の重なりやぶつかったような音の重なりが生まれる」
・「それらによって音楽の雰囲気も変わる」
ということに気付いているみたいだね。

○　考察

○　今回は、グループによって「語ろう会」の活発さに差が出た。本題材では「語ろう会」で題材が終わってしまう構成だったが、さらに明確なゴールの設定があると、その「語ろう会」もより活発になったと考える。

○　役割をふりかえらせる際に、これまでの役割のふりかえりを見せていなかった。全員がそれぞれの役割を見ながら、話し合えるようにすると有意義なふりかえりができたのではないだろうか。

○　この役割のふりかえりについては、本題材が初めての取組であった。次以降の題材のなかで、この取組がどのような影響を及ぼすのかを確かめていく必要がある。

御意見・御質問はこちら（研究部アドレス）
miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

○　本時の目標

仲間にずれの音楽のおもしろさを語ったり、仲間のずれの音楽のおもしろさを聞いたりして、ずれの音楽のおもしろさを見出すことができる。

○　指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり　（★は評価にかかわるもの）
1　「かえるの歌」を様々なずれで歌い、お気に入りのずれや本時の学習について話し合う。 ○　様々なずれの「かえるの歌」 ・　２拍ずらし、４拍ずらし　等 ○　「かえるの歌」のずれのおもしろさ ・　重なった時の響きの違い ・　重なり方の違い ○　本時のめあて 自分のお気に入りのずれについて、グループの仲間と語り合おう。	○　「かえるの歌」を基本的な８拍ずらしで歌った後、これまであまり経験のない４拍や２拍ずらしで歌わせることで、ずれが変わると曲の雰囲気が変わることに気付くことができるようにする。 ○　「かえるの歌」のお気に入りのずれやその理由についての話合いをとおして、お気に入りのずれを語る楽しさを感じさせることで、本時のめあてをもち、意欲を高めることができるようにする。
2　本時の流れを確認する。 ○　本時の流れ ・　お気に入りのずれの決定 ・　語ろう会 ・　ふりかえり	○　本時の流れと、目安の時間を掲示することで、タイムマネジメントをしながらお気に入りのずれを決定したり、話合いのときの１人分の時間を計算して見通しをもったりすることができるようにする。
3　お気に入りのずれの決定と、仲間に伝えたいおもしろさをまとめる。 ○　お気に入りのずれとそのおもしろさ	○　仲間に伝えたいおもしろさは、箇条書きでメモをさせておく。さらに、発表の時にはそのメモを見ながら話してよいことを伝えることで、気付いたおもしろさを漏れなく伝えることができるようにする。 ○　ずれのおもしろさが書けない子どものために、グループ以外の人と交流する時間を設ける。そうすることで、どのようなことをおもしろさとしてまとめればよいかヒントを得ることができるようにする。
4　グループでお気に入りのずれを紹介する「語ろう会」を行う。 ○　語ろう会で見出してほしいこと ・　ずれの音楽のおもしろさについて ○　仲間が気付いたずれのおもしろさ	○　「語ろう会」の前にまとめの書き出しを提示しておく。仲間の気付きを１つでも多く集めるとよいことを助言することで、ずれのおもしろさについて見出しながら相手の話を聞こうとすることを期待する。 ○　まずは、自分のお気に入りのずれをグループで鑑賞させてから、気付いたずれのおもしろさを発表させる。そうすることで、相手の伝えたいことを理解することができるようにする。
5　ずれの音楽のおもしろさと、仲間との活動についてふりかえる。 ○　ずれの音楽のおもしろさは… ・　音がきれいに重なったり、ぶつかったりするところ ・　新しい印象的な音楽が生まれるところ　等 ○　仲間との活動について ・　あってよかった役割 ・　あるとよかった役割（ここを変えたら…）	★　自分の気付きだけではなく、仲間の発表も基にしてずれのおもしろさを見出している意見を価値付けることで、仲間との話合いの意義を感じることができるようにする。 ○　仲間との活動でのそれぞれの役割について話し合わせることで、それぞれの役割で活動が成り立ったことを自覚し、さらに必要な役割についても気付くことができるようにする。

○　本時の評価規準

仲間にずれの音楽のおもしろさを語ったり、仲間のずれの音楽のおもしろさを聞いたりして、ずれの音楽のおもしろさについてまとめることができている。（知識・技能）【記述分析】